

7月の活動予定

月	火	水	木	金
			1 閉	2
5	6 10～16時	7 10～16時	8 10～16時	9
12	13 10～16時	14 14時～ リスク勉強会 16～19時 提言する会	15 10～16時 (午前 研究 打ち合わせ)	16
19	20 海の日	21	22	23
26	27 閉	28 10～16時	29 10～16時	30

予定は変更になる可能性がありますのでご了承ください。

プロジェクトや「提言する会」の活動やニュースレター「しーきゅうぶ」に対するご意見ご要望をお聞かせください。



郵便はがき

料金受取人払

100-8787



差出有効期間
平成17年3月
31日まで

(受取人)
東京都千代田区大手町1-6-1
財団法人電力中央研究所
社会経済研究所内
Cキューブ事務局
担当 土屋智子

ご意見・ご要望

よろしければお名前とご住所をご記入ください

C³プロジェクトでは、リスク情報の発信とコミュニケーションの場として事務局を設けています。ぜひお立ち寄りください。資料の貸し出しも行っています。

C³ (しーきゅうぶ) プロジェクトとは

プロジェクトの正式名称は、「原子力技術リスクC³研究：社会との対話と協働のための社会実験」といいます。平成14年度に経済産業省原子力安全・保安院が新設した提案公募型研究にリスクコミュニケーション研究の第1号として選ばれました。

東海村の皆さんといっしょにリスクを考え、行政や原子力事業者との対話や協働を実現するため、「東海村の環境と原子力安全について提言する会」を設けています。現在のメンバーは16名。住民の視点で事業所の安全対策を確認・提言していく「視察プログラム」を中心に活動しています。

このニュースレターは、皆さんに広く活動を知っていただくために、作成・配布しているものです。役場やコミュニティセンターのほか、駅、合同庁舎、核燃料サイクル開発機構、日本原子力研究所、日本原子力発電株式会社の各見学・交流施設内に置いてあります。

つぶやき・C・C・C

「知らない」「読んだことがない」最近しーきゅうぶの魅力のなさを痛感させられていたところ、山口さん、床井さん、高木さんが情報提供ワーキングで私を叱咤激励してくださいになりました。この編集後記もどきも山口さんのアイディア。「3人よれば文殊の知恵」を実感しています。(土屋智子)



原子力技術リスクC³プロジェクト事務局
〒319-1111 東海村舟石川821-52
東海村合同庁舎(1号館)2階
電話：029-287-1665
携帯：090-4674-0117
ホームページ：http://tokaic3.fc2web.com

しーきゅうぶ



2004年 7月 第11号

サイクル機構から回答！ 原電視察も実施

住民の指摘事項を踏まえた改善内容が示される サイクル機構「外部の指摘は有効。当たり前と思ってきた所を見直す機会になった」

5月末「東海村の環境と原子力安全について提言する会」がまとめた視察レポートに対して、核燃料サイクル開発機構から正式な回答書が届きました。「提言する会」の第13回会合(6月9日)に、サイクル機構から3名が出席し、回答書をめぐって、住民が期待する安全対策について議論しました。

原電東海発電所の解体作業現場を視察 原電「さらなる安全対策が必要な所に気づく機会になった。初心にかえて対応したい」

6月14日(月)に、日本原子力発電株式会社の東海発電所廃止措置の視察を行いました。解体作業現場は警備強化の関係上、現在は一般に公開されていませんが、2時間かけてタービン建屋、原子炉サービス建屋、原子炉建屋を細かく見学しました。現在視察レポートを作成中です。

～ ＊ ＊ ＊ ～

今年のC³プロジェクトは、リスク情報の発信とリスクコミュニケーションの実施を課題にあげています。このため、「提言する会」の皆さんを対象にリスク勉強会(C³寺子屋)を5月から始めました。リスクを理解し判断できる能力を培っていただくための勉強会です。5月25日には、勉強会の一環として東京電力株式会社常陸那珂石炭火力発電所を見学しました。



東京電力株式会社 常陸那珂火力発電所
タービン建屋内にて(5月25日)



100万キロワットのタービン発電機は
最高水準の効率を追求
環境対策も徹底



「東海村の環境と原子力安全について提言する会」の活動報告



今年度の活動計画を検討（第11回会合 4月14日実施、第12回会合 5月12日実施）

「提言する会」は、今年度の活動計画と実施方法について議論し、視察プログラムの継続的な実施、ワーキンググループの設置を決めました。設置するワーキンググループは以下のとおりです。

- ①**視察ワーキング**：昨年度の視察実行委員会を発展させたもので、視察の継続的な実施のための準備や視察レポートのとりまとめを行います。
- ②**インタープリター育成ワーキング**：ぜひ実現したいインタープリター（原子力の情報を分かりやすく解説できる人）の育成プログラムについて議論します。
- ③**情報発信ワーキング**：もっと皆さんに読んでいただけるニュースレターづくりを検討します。また、さまざまなリスク情報の発信方法を考えていきます。

また、研究プロジェクトが平成16年度で終了した後の継続的な活動をどう実現していくかについても議論を重ねています。



サイクル機構の回答をめぐる議論（第13回会合 6月9日実施）

「提言する会」では、昨年10月20日に核燃料サイクル開発機構東海事業所の再処理施設と廃棄物処理施設を視察し、視察レポートを2月20日に東海事業所長あて提出しました。この視察レポートに対する回答が5月末に届き、サイクル機構から3名に出席いただいて、回答内容に関する議論を行いました。

<「提言する会」メンバーとの主な議論>

サイクル機構：回答が遅れたことをお詫びしたい。これまで当たり前だと思っていたところについても指摘を受け、レポートを各職場で回覧するなどして、いろいろ見直した。

提言する会：回答書の内容は前回（1月と2月の会合時の説明）より改善されたと思う。しかし、外部の基準でよしとするのではなく、東海村にある事業所として緊急事態に本当に対応できるのかを徹底的に議論して対策を検討してほしい。

サイクル機構：これで終わりとは思っておらず、より安全な事業所になるように継続的に努力をしていきたい。

提言する会：改善を継続していくということだったが、どのように実施していくのか？ 住民と事業所が風通しのよい関係になることが重要。今後も改善がなされたらタイムリーに伝えてほしい。また、半年に一度程度交流会ができるとよい。

サイクル機構：これからもざっくばらんな話をさせていただきたいと思う。

提言する会：これだけ回答が遅れるというのは、民間企業では考えられない。また、回答の内容も現場の生の声がないように感じる。現場が本当に考えたと思えるような検討結果を示してほしい。

提言する会：アスファルト固化施設の経験を事業所内で語り継ぐことも重要ではないか。



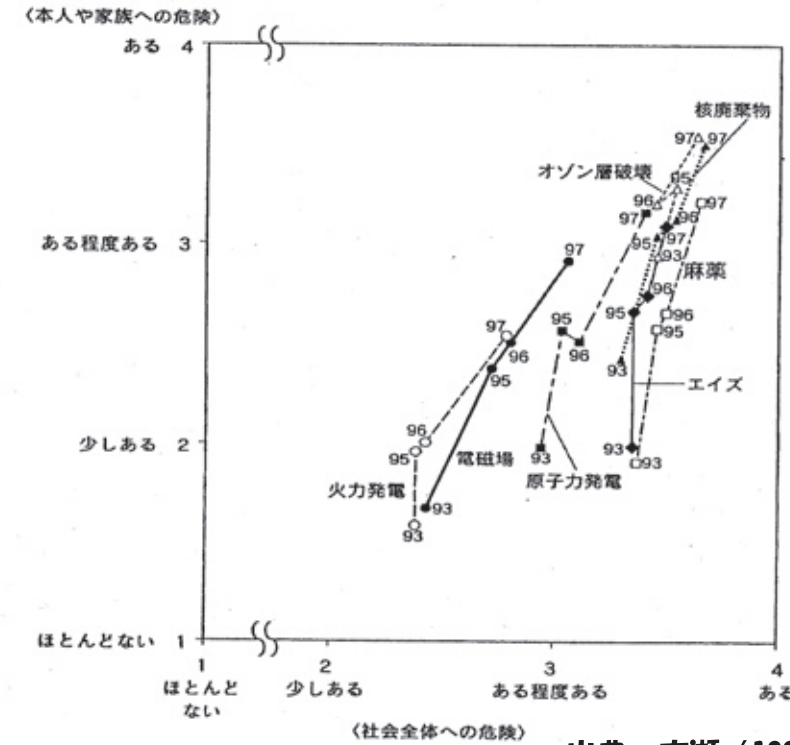
原電 東海発電所 廃止措置について視察を実施（第2回視察）

6月9日に2時間をかけて事前説明を聞き、6月14日に視察を実施しました。梅雨の合間のたいへん天気の良い日に実施することができました。

参加者は、「提言する会」から9名、サイクル機構より2名、C³事務局2名の計13名です。約2時間、日本初の商用原子炉である東海発電所の解体作業現場を見学した後、事業所の方々と2時間議論を行いました。今後、視察ワーキンググループが視察レポートをとりまとめます。レポートができ次第、視察の様子をお知らせする予定です。

リスク勉強会の資料から

東京都民のリスク観はどう変わったか？



出典：広瀬（1998）

左のグラフは、東京都民が、原子力発電やエイズなどを個人に対する危険と考えるか、社会全体に対する危険と考えるかをたずねた結果です。阪神大震災と地下鉄サリン事件がおきた95年を境に、これまで社会の危険と考えていたものが、個人にとっても大きな危険になるという意見に変化してきています。

身の回りのリスク② 技術革新がもたらす新たな危険

「科学技術にはよいことも悪いこともある」「科学技術には予想もできないことが起こる」

これは、文部科学省などが行う調査に示された日本人の科学技術に対する見方です。事実、技術革新は社会に役立つ一方で、新たな危険も生み出してきました。

例えば、感染症の画期的な治療薬である抗生物質を考えて見ましょう。ストレプトマイシンという抗生物質のおかげで、結核で死亡する人は非常に少なくなりました。効果的な薬ですから、ちょっとした力でも抗生物質を使うお医者さんもいたようです。ところが、抗生物質の発見から数年たつと、抗生物質が効かない耐性菌が生まれました。耐性菌に対抗するため、耐性菌に効果のある抗生物質が開発されるイタチゴッコが始まったのです。しかし、耐性菌は増え続け、いくつもの抗生物質に耐性をもつものまで現れるに至りました。こうした耐性菌は、健康な人には特に問題ではありませんが、お年寄りや病気の人、子供など抵抗力が弱っている人が感染してしまうと、有効な治療薬がないために死亡することもあります。2002年には、東京と新潟で耐性菌による院内汚染によって死者が出てしまいました。

抗生物質は医療以外にも使われています。イネの病気を防ぐために水銀を使った農薬が使用されていましたが、これを抗生物質に変えることができました。家畜に与えると病気にかかりにくくなったり、成長が早くなったりすることがわかり、畜産業でも使われています。もちろん、養殖業でも使われています。薬だけでなく、さまざまな経路で抗生物質は私たちの体に入ってきます。

このように、抗生物質という技術は、感染症や伝染病のリスクや水銀による環境汚染や、畜産・養殖の経済的リスクを低くしましたが、手の打ちようのない新たな病気を生み出してしまいました。同様に、原子力発電という技術は、石油に頼らず二酸化炭素を出さず膨大な電力を提供していますが、潜在的な放射能汚染のリスクや、何十年何百年という期間にわたる放射性廃棄物の管理という新たな問題をもたらしました。超高層ビルの建設技術は、限られた地域に大きな経済力を集積させることを可能にしましたが、頭のはるか上からの落下物の危険や、緊急避難のときにはお年寄りや子供、妊婦、体の不自由な人などたくさんの人が助けを必要とする問題をかかえています。インターネットの普及は、自宅から世界につながる情報ネットワークの実現や個人が世界に向けて情報発信するという可能性をもたらしましたが、昨今の事件は、個人情報への流用や悪用、武器の製造方法や危険な思想の広がり、周囲とのコミュニケーション能力を失う危険を示唆しているようです。